



第16回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

四方よし

福岡県・福岡県立小倉高等学校 2年 畠中 遥子

「三方よし」という言葉がある。売り手よし、買い手よし、世間よしの三つの「よし」をとったものだ。売り手と買い手が共に満足し、また、社会貢献も出来るのが良い商売であるという意味である¹⁾。これは、近江商人の心得を言ったものだそうだ²⁾。では、この「三方よし」は具体的にはどのようなものだろうか。

私は、北九州市と独立行政法人国際協力機構が主催する上下水道ユース研修に参加し、ベトナムのハイフォン市を訪れた。北九州市水道局はそこで上下水道普及の支援を行っている。その結果、現在のハイフォン市の上水道普及率は95パーセントになった。しかしこの支援は、水道設備を造って終わりではない。ベトナム人技術者を育成して自国で維持管理ができるようにし、水道料金徴収を行うシステムを構築し、北九州市の職員が帰国した後も、ベトナムの職員だけでその水道施設を持続可能にすることを目的としているのだ。これは、「買い手よし」である。

私の住む北九州市は、官営八幡製鉄所の創業以来、重化学工業の中心地であった。そしてそのために、大腸菌すら棲むことができないほど汚染された洞海湾^{どうかい}や、生活排水で汚れた河川が問題になった過去がある。しかし、子どもの健康を守りたいという母親たちが声をあげたことで、官民が一体となり公害の克服につながった³⁾。この公害克服の経験を、他国への技術支援として生かしているのである。現在のハイフォン市は川の汚染が深刻で、私が見学した川も生活排水で変色し、魚がたくさん死んでいた。この現状を変えるためには、下水道を造ることが欠かせない。北九州市は、これから下水道設備の支援にも取りかかるそうだ。この環境改善は「世間よし」である。

また、この北九州市の支援は、地球環境保全や国際貢献であると同時に、北九州市上下水道局の技術者を育てるという目的もある。北九州市においては、若い職員が新たに水道設備を造る機会がなく、技術の継承を行いつらい。そう

なると、水道設備の老朽化により新設が必要になった時に、技術者が育っていないということになりかねない。つまり、この支援を行うことで北九州市上下水道局の若手技術者も育成できることは「売り手よし」となる。したがってこれは、水環境改善となる「世間よし」、ベトナムの持続可能な水道設備が整う「買い手よし」、北九州市の技術者育成という「売り手よし」の「三方よし」の事業なのである。

では、世界に目を向けてみよう。今、世界にはさまざまな問題がある。貧困や水、気候変動などだ。これらの問題は、2015年9月に国際連合サミットで採択された「持続可能な開発目標」の17項目に入っている。中でも「貧困」は、項目の一番目に置かれている⁴⁾。なぜならば、貧困の問題は、飢餓や水、教育などの他の問題と密接に関わっているからだ。私は中学3年生の時に、ニューヨークの国連本部で研修を受ける機会があり、その時にこの開発目標について学んだ。それ以来、どうしたらこの目標を達成出来るだろうかと自分なりに考えていた。そして考えついたのが「四方よし」である。

今、さまざまな企業が、持続可能な開発目標の達成に向けてビジネスに取り組んでいる。例えば、ある銀行は環境破壊などの社会的問題を解決するための投融資指針を整備している。また、食品会社の中には、高齢者の健康増進のため介護予防カフェを始めたところもある⁵⁾。これらの企業の取り組みは、環境・売り手・買い手の「三方よし」の精神と重なる。

しかし現代の社会では、私は「四方よし」の精神が大切だと考える。「四方よし」という言葉はさまざまな企業が使っているが、その四方目は異なっている。ある企業は、「未来よし」⁶⁾、またある企業は、「働き手よし」⁷⁾である。だが、私の考える四方目、それは「作り手よし」だ。

世界中の国と取引が行われている現代では、作り手つまり生産者は、遠く離れた国の人々であることが多い。そのため、その人々の労働環境や暮らしは見えにくくなっている。作り手に関する問題、それは「現代の奴隷」と呼ばれている人々がいることだ。つまり、適正ではない低い報酬で働かされている人々がいるのである⁸⁾。これはそのまま貧困問題につながっている。

例えば、綿花の生産には大量の農薬を使うので、慢性の病に苦しむ生産者が300万人もいる。しかし、そのほとんどは発展途上国の小規模農家のため、育

てた綿花は安く買い叩かれてしまい、わずかな収入しか得ることができない⁹⁾。バングラデシュの縫製工場で働く人々のほとんどは賃金交渉が認められておらず、ジーンズ一着を作って得られる収入は約11円だ¹⁰⁾。ガーナのカカオ農園では、多くの子どもたちが働かされており、彼らは学校に行くことができない。怪我や農薬による健康被害も心配されるが、もらえる報酬はわずかだ¹¹⁾。これらの状況を改善すべくフェアトレードが行われるようになり、その工場や農園で働く人は、安定した生活を送るのに必要な賃金を得られるようになった。しかし、働きたいという人をすべて雇うことはできない。なぜなら高い賃金を維持したまま社員を増やすためには、大口の注文を受けなければならないが、その注文を受けると、厳しい価格競争に巻き込まれて賃金が下がってしまうというジレンマがあるからだ。

作り手に支払う対価が安ければ、売り手は儲かり買い手も得をする。しかし、このように誰かの犠牲の上に成り立っている経営は、もう終わりにしなければならない。もし私の考える四方よしの経営を行えば、企業は利益が減り、消費者も、より高い金額を支払わなければ商品を買うことができなくなるかもしれないが、それが本来の価格であったのだと考えなければならない。つまり、本当の意味で問題を解決するには、売り手、買い手の意識改革をしなければならないのだ。

四方よしの経営が行われるためには、生産される商品について企業だけに任せるのではなく、私達もきちんと考えて消費することが必要である。その商品は誰がどのようにして作ったのか、環境への配慮はあるのか。それを考えて買うものを決める、エシカル消費が大切だ。また、消費者の声が、企業の経営方針を変えることもできる。例えば、余った商品の横流しを防いで自社商品の価値を保とうと、大量の洋服などを廃棄処分していた高級ブランドは、世論の批判にさらされてその経営姿勢を改めることになった¹²⁾。

「作り手よし」を実現するためには、私たち消費者つまり買い手が、学び、考え、声をあげ、能動的に世界の問題に関わっていくことが大切である。そして「四方よし」の世界をこれからみんなで作っていきたい。

(注)

- 1) コトバンク (小学館提供『デジタル大辞泉』)
URL <https://kotobank.jp>
閲覧日 2018年9月2日
- 2) 起業.tv 『『三方よし』とは? 経営者なら知っておきたい、近江商人の商売の極意』
URL <https://kigyotv.jp/news/sampo-yoshi/>
閲覧日 2018年9月2日
- 3) 吉村和就『図解入門業界研究 最新 水ビジネスの動向とカラクリがよ〜くわかる本』秀和システム
2012年9月
- 4) 朝日新聞 2017年4月17日 朝刊「(2030 SDGs で変える) 未来へ 企業ができること」
- 5) 朝日新聞 2018年8月23日 朝刊「(2030 SDGs で変える) トップが語る: 2 藤原弘治・全国銀行協会会長 (みずほ銀行頭取)」
朝日新聞 2018年8月31日 朝刊「(2030 SDGs で変える) トップが語る: 7 高岡浩三・ネスレ日本社長」
- 6) 日本電気株式会社「『四方よし』の経営モデル」
URL <https://wisdom.nec.com/ja/events/2017012701/02.html>
閲覧日 2018年9月2日
- 7) 株式会社ドウシシャ「経営理念」
URL <https://www.doshisha.co.jp>
閲覧日 2018年9月5日
- 8) 朝日新聞 2017年10月26日 朝刊「フェアトレードから考える持続可能な社会」
- 9) 一般社団法人エシカル協会「なぜエシカル?」
URL <https://ethicaljapan.org/why-ethical>
閲覧日 2018年9月4日
- 10) The Asahi Shimbun GLOBE「未来をあきらめない SDGs に見える世界」November 2017
- 11) 特定非営利活動法人 ACE「ガーナ・カカオ生産地の児童労働」
URL <http://acejapan.org/choco/childlabour>
閲覧日 2018年9月4日
- 12) 朝日新聞デジタル「バーバリー、売れ残りの廃棄『やめます』寄付など拡大」2018年9月8日
URL <https://www.asahi.com/articles/ASL966J9XL96UHBI02K.html>

〈参考文献〉

- ・北九州市上下水道局長 有田仁志「平成30年度 上下水道ユース研修『水をみがくこと』」
- ・独立行政法人国際協力機構「池上彰と考える! ビジネスパーソンの『国際貢献』入門」 「水の問題」
URL <https://www.jica.go.jp/aboutoda/ikegami/index.html>
閲覧日 2018年8月18日